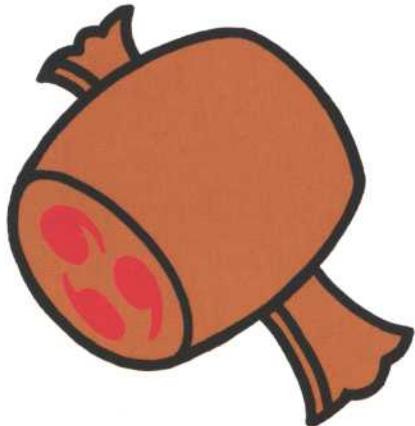
おはなしシリーズ
1
いっすんぼうし

むかし　むかし　こどもが　いない　おじいさんと
おばあさんが　かみさまに　おねがいを　すると
こゆびくらいの　おとこのこが　うまれました。
「なまえは　いっすんぼうしにしましょう。」
ふたりが　たくさん　ごはんを　たべさせたので
いっすんぼうしは　とても　げんきに　そだちました。

「じいさま　ばあさま　おいら　みやこを　みてきたい。」
いっすんぼうしは　はりを　かたなにして　こしに　さし
おわんに　のって　かわを　のぼっていきました。
みやこに　ついた　いっすんぼうしは
はじめに　だいじんの　やしきに　いきました。

だいじんは　からだは　ちいさいけれど　げんきな
いっすんぼうしを　たいそう　きにいり
じぶんの　いえで　はたらかせることにしました。
あるひ　おひめさまが　おまいりを　するので
いっすんぼうしが　おともを　することになりました。

おまいりが　ぶじに　すんで　かえろうとしたときです。
「うまそうな　むすめじゃあ。」
おにが　とつぜん　おひめさまに　おそいかかりました。

いっすんぼうしは　おにの　くちの　なかに　とびこみ
かたなで　おにの　おなかの　なかを　ちくり　ちくり。
「いてててて　こりゃ　かなわん。」

おには　いっすんぼうしを　はきだし　にげていきました。
「おや　こづちが　おちているわ。」
おおあわての　おにが　ねがいが　かなう
うちでの　こづちを　わすれていったのです。
「おひめさま　わたしの　せを　たかくしてください。」

おひめさまが　こづちを　うつと　いっすんぼうしの
せが　たかくなり　りっぱな　わかものに　なりました。
この　はなしを　きいて　だいじんは　おおよろこび。
「ひめを　よめに　もらっておくれ。」
いっすんぼうしは　おじいさんと　おばあさんを　よび
おひめさまと　けっこんして　しあわせに　くらしました。